

13. 戦後の名古屋まつり

昭和20年(1945)太平洋戦争で国宝名古屋城の天守閣と運命をともにし、東照宮祭(名古屋祭)の山車9輛は全て焼失し、若宮祭の山車も焼失や売却にて、**一時的に両祭礼の山車は御城下から消え**、名古屋名物の山車も跡形も無くなった。

昭和24年(1949)に**福祿寿車**が新出来町より御返車され、若宮祭は再興された。東端の**筒井町**の2輛は焼失を免れ、**出来町**では戦災で**2輛焼失**したが、住吉町から**河水車**の購入と**古出来町**は**山車の新造**により3輛の山車祭りが復活した。堀川西の旧御見舞車は**紅葉狩車・二福神車・唐子車**の3輛が焼失を免れた。

戦後初めての山車揃えは昭和24年(1949)の**市制60周年記念山車揃え**である(8輛参加)。

昭和28年(1953)に山車が保存調査の対象になり、筒井町神皇車を皮切りに旧名古屋三大祭の**山車8輛が文化財に指定**された。昭和29年(1954)10月17日の**名古屋商工祭**で文化財に指定された山車8輛が揃えられた。

この商工祭が祭礼復活の機運を高め、翌昭和30年(1955)10月16日に盛大な**第1回**の**名古屋まつり**が開催された。

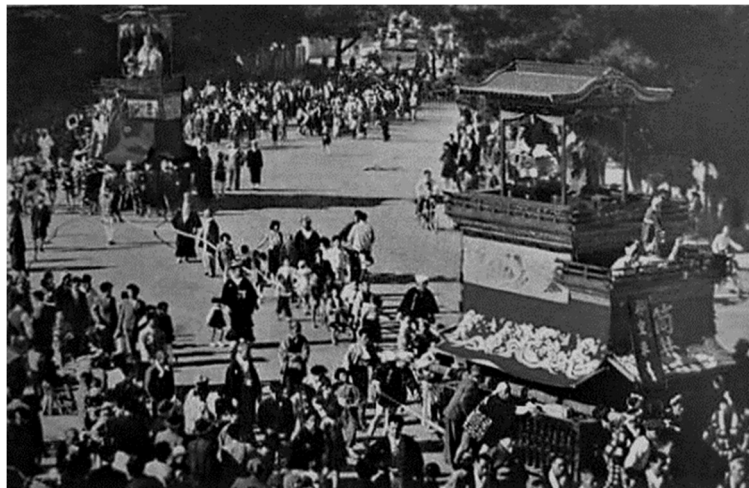
市制60周年記念山車揃え



名古屋商工祭



■第1回名古屋まつり 昭和30年



■本町通り曳行 昭和35年迄



■提灯点灯 昭和35年迄



■熱田神宮神輿渡御 昭和44年迄



- 昭和30年、第1回名古屋祭が始まる(文化財指定8輛参加)
- 昭和35年迄は本町通を曳行した
- 昭和35年迄はテレビ塔付近で提灯を点し帰町した
- 昭和36年に曳行路が大津通りに変更となる
- 昭和44年迄は広小路を曳行していた
- 昭和44年迄は郷土英傑行列家康隊の後に曳行した
- 昭和46年に熱田神宮のお旅所が無くなり神輿渡御が無くなる
- 昭和46年以降は栄迄と短縮された、屋根廻りの提燈が無くなる

■昭和36年 朝日町(大津通)で英傑行列の通過を待つ



■昭和42年 県庁前で英傑行列の通過を待つ



■名古屋まつりのお供え(神皇車)



神皇車(筒井天王社)

- 曳行には**神の存在が必要**である
- 筒井町天王祭は**津島神社の御札**を四本柱に祀る
- 名古屋まつりは**高牟神社の御札**を四本柱に祀る
- 筒井天王社には**獅子**を飾る
- 名古屋まつりは**氏神の祭礼**の延長上にある
(10月14・15日は**高牟神社**の大祭日)

■ 30回記念 昭和59年10月13日
久屋大道パーク



■ 60回記念 平成26年10月18日
東照宮～名古屋城二之丸



■名古屋まつり山車揃 参加10輛 ※名古屋三大祭等に由来する山車が集結 ※牛頭天王車は昭和48年まで参加



若宮八幡社 福祿寿車



花車町 紅葉狩車



花車町 二福神車



内屋敷町 唐子車



牛立町 牛頭天王車



筒井町 神皇車



筒井町 湯取車



新出来町 鹿子神車



出来町 河水車



古出来町 王羲之車 93